●「SHINWA WALK～伝説そぞろ歩き」は、「ギリシャ神話と日本神話のハイブリッド」という手法で、郷土の神話、伝説、民話の足跡をたどるロマン紀行です。新しい伝説の世界をお楽しみください。

SHINWA WALK 35

35th Letter

大高城伝説

伝説そぞろ歩き

蓬生の
城址に立ちて
たそがれる
戦国の世に
思い馳せつつ

頻繁に城主が交代した大高城
信長は鷲津・丸根両砦で対抗

大高城は1504～21年の間に築城され、初代城主は花井備中守。1532～55年の間は水野忠氏の居城となりました。その後の大高城は、織田信長と今川義元の抗争に巻き込まれて、めまぐるしい城主交代劇の舞台となってゆくことになります。というのも、当時大高は、織田領と今川領のちょうど境界点に位置していたからです。水野氏は当初今川軍に属していましたが、後に織田軍に従ったことから、1559（永禄2）年に今川方の鳴海城主・山口左馬助に攻め落とされ、今川方の鵜殿長照が城主となりました。

これに対抗して織田信長は鷲津砦・丸根砦を築いて大高城の兵糧攻めを計画しました。一方、今川義元は松平元康（後の徳川家康）に大高城への兵糧輸送を命じ、元康は見事に大役を果たし、名を挙げることとなりました。これが、有名な大高城兵糧入れです。桶狭間の戦いの時は元康が大高城を守っていましたが、義元の敗退により岡崎へ引き上げ、大高城は廃城になりました。

大高城跡は、標高20mの丘にあり、東西106m、南北32m、四方に二重の堀がありました。現在は、大高城跡公園として整備されていますが、実際に現地を訪れてみると、登り階段の上は「草木が生い茂る野原」という趣で、大高市街も一望できます。また、公園中央の一段高い丘には、城山八幡宮の祠と大高城跡碑があります。なお、外堀は藪として残っています。

鷲津砦は、対峙する今川方の大高城から北東へ約800mの場所にあり、標高30m、南北69m、東西40mと伝えられています。鷲津砦から東南約400mのところには丸根砦があります。標高35mの丘の上に築かれ、東西36m、南北28m、その外に幅3.6mの外堀があります。

なお、大高城跡、鷲津砦跡、丸根砦跡の3史跡は、ともに1938（昭和13）年に国の指定文化財となっています。

▲ 大高城跡は、現在は大高城跡公園として整備されている。

ギリシャ神話の舞台の一つ
実在したクノッソス宮殿

大高城は頻繁に城主が交代したという話でしたが、ギリシャ神話では、クレタの王・ミノスがクノッソス宮殿（通称ラビリンス）に永続的に居城してクレタ全島を支配していました。クノッソス宮殿は、アテナイの英雄・テセウスがミノスの王女・アリアドネのアドバイスによりミノタウロスを退治するエピソード「アリアドネの糸」や「イカロスの翼」の舞台としても有名です。

イギリスの考古学者、アーサー・エバンスの発掘調査により、実際にクノッソス宮殿がみつかったことで、神話の舞台が実在したことが証明されました（発掘調査の詳細はSHINWA WALK34参照）。

エーゲ海の南端に位置するクレタ島は、小アジアへ約200キロ、エジプトへ約300キロ、シリア沿岸へ約500キロという地理的条件から、オリエント世界とギリシャ世界の中継点としての性格を備えていました。加えて、島内に平野もあり、自給自足はもちろんのこと、輸出も可能であったことから、一つの都市として発展することができたと思われます。紀元前2000年頃から東地中海の中心的存在となるのです。

クノッソスはクレタ最盛期の首都で、人口約8万人、当時としては世界最大級の都市でした。島の北岸、現在のヘラクリオン市の南郊の丘陵地に、2キロ四方ほどの居住地が展開し、その中心に、大宮殿、小宮殿、大邸宅などがあったとされています。宮殿の東側は川に接していて、その流れは約6キロ離れた海岸に注いでいました。今は水量が減っていますが、当時は、船が宮殿まで直接接岸できたと推察できます。

紀元前700年頃にホメロスとヘシオドスが書いた4つの叙事詩をもとに紀元前100年頃にアポロドロスがまとめたとされるギリシャ神話。実在したクノッソス宮殿を舞台に紡がれていたのかと思うと、感慨深いものがあります。虚構と現実の間にこそ、ロマンがあるのかもしれません。

※次回は正覚寺に伝わる松風の里伝説について特集します。お楽しみに。

■ 写真／Kiyoshi K　■ イラスト／Rei　■ 取材・文／Icarus